

## 参考資料

1. ワーキング概要と委員指摘事項
2. 実証実験データ（輝度、歩行様態）



## 参考資料 1. ワーキング概要と委員指摘事項

### 第1回

日時：平成25年1月10日（火）10:00～12:00

場所：中央合同庁舎2号館1階 共用会議室3A

議事内容：

- (1) 本事業の概要
- (2) 業務の流れ・スケジュール
- (3) 調査方法

委員指摘事項：

- ・3カ月という検討期間では議論や問題を解決するための手立ての具体的な対策を提案するには期間が短すぎるので、どこに大きな問題が生じているのかを整理し、具体的な解決策を考えていった方がよいのではないか。
- ・行き先案内、段鼻の問題、エスカレーターの進入方向の時間的変更の情報提供、案内は目の高さなどが重要
- ・旅客施設の移動という全体を通して大きな目的や行動を決め、それに合わせたニーズを把握していくことによって、様々な課題がはまっていくのではないか。
- ・ロービジョン者と全盲者のニーズが食い違う可能性があるが、弱視者に絞っていた方がいいと思う。
- ・ロービジョン者への配慮をしている施設が既にあるのならば、そこをスタートとし、今までの知見でここまででき、これからどうすればよいのか、という考え方ができる。効率的に実証実験ができるよう見直していただきたい。
- ・調査内容を広げ過ぎているというイメージを持った。先進事例は全ての利用者を対象として整備したものについて、ロービジョンの方が良いと思うものを挙げていくことが、時間の少ないなかではよいのではないか。
- ・目的を絞る時に、一連の行動の中で何が最も優先できる課題かということ整理してほしい。
- ・それぞれの施設設備が、何を改善すればロービジョン者が使いやすくなるのかを整理してその後の実証実験に活かすとやりやすいのではないか。
- ・今ある中の良い先進事例を扱うことと、逆にだめな例を取り扱っていく方法もある。ロービジョン者からとても不評をかっていて、それはどういう理由かということ整理していく。
- ・今回の調査で、「環境」のところまで鑑みようとしているが、そこまではおそらくやりきれない。「環境」をインテグレートできる人がメンバーにいない気がする。少し風呂敷を広げ過ぎているのではないか。
- ・ある程度良好だと思われる先進事例からスタートするのは賛成である。中部国際空港は羽田や新千歳の先行事例として、ロービジョン者に配慮したサイン計画や床のデザイン、照明計画を考慮したものである。他に国際障害者交流センター等が先進的な事例ではないか。
- ・きちっとロービジョン者のことを配慮・検討したという実績のあるものを先行事例としとりあげて調査研究をやるのも一つの方法である。
- ・環境を整えてどれが最も適正かという事はどこかの時点でやらなくてはいけないと思うが、次の段階で実施せざるを得ないかもしれない。

- ・エコモ財団が照明について調査を行うので、このワーキングでは照明をどう扱うのか？
- ・ハードを良くしても絶対的なものがあるのでソフトの部分で対応しなければならない部分も残ってくる。今回の短い時間でやるのであれば、ある程度課題に対応してきた先進事例をロービジョン当事者に歩いていただくとか、悪いと言われている事例でも実際に行って歩いていただいて新たな課題を解決するというのも一つの方法である。
- ・弱視の立場からすると、特に何が困るのかという、先進事例とは逆の、「こういったことをやられると困る」という最低ラインを押さえていただきたい。
- ・最終的な使いやすさということから最終的なアウトプット、ガイドラインのあるかたちを提案できれば良いと思う。
- ・この電車に飛び乗らなくてならないという状況か、毎日の通勤・通学なのか、通学であるとすれば、それは若年層であり身体的には恵まれていることが予想される等、ある程度の切り分けはできていくと思うので、その中で、どの部分が一番問題で、どの状況が一番困っているのかという整理をしないとこの時間の中で問題を片づけていくのは難しい。
- ・今までのロービジョンに対し頑張ってきた設計や、実際の実践があちこちにあるので、基本的なベースをまず揃える必要がある。また、ロービジョン者が現在公共交通を使うにあたりどういう問題に直面しているか、その問題の整理をもう一度しておき、その上である目的行為に対し、公共交通を利用する際の場面を設定して、その場面や対象者に対してどういう問題が生じているか、それぞれの部品についての問題も整理する必要がある。
- ・さらに次のステップとして、一連の大きな流れの中で行われる部分と、個々の部品について、周辺環境との問題がどういう関係で存在しているのか、そのあたりの整理が次の段階である。

## 第2回

日時：平成25年2月15日（金）10：00～12：00

場所：中央合同庁舎3号館4階総合政策局局議室

議事内容：

- (1) 第1回ワーキングの指摘事項の確認
- (2) 設備整備の問題構造の整理結果について
- (3) 実証実験の方法について

委員指摘事項：

- ・視覚障害者は手すりをガイドとして使っているのをこれをどう位置付けるか。また、通路では人との衝突を恐れている。
- ・床面のサインは、特に混雑したところでは100%良いわけではない。交通量が多いと床のサインがわかりにくい。
- ・階段の踊り場には古いタイプの配置のブロックもまだ多い。誘導ブロックの配置の考え方は整理されているので対応が必要である。また、誘導ブロック自体の退色があること、黄色といっても様々なバリエーションがあるので、黄色の定義についての検討が必要ではないか。
- ・誘導ブロックに側帯をつけることについて、道路では行われてきたが鉄道ではひとつも行われていない。鉄道でどうするかはガイドラインに書いていないのでやっていないだけで、ある程度やった方が良いケースもある。
- ・サインが多すぎるとわかりにくい。少し整理されてもよいのではないか。
- ・JISで決まっている避難口の表示が小さいのではないか。蓄光材で床にはめられているものもせいぜい10cm程度の大きさで、これも小さいのではないかと感じる。
- ・全盲の方も考慮して検討したほうがよいのではないか。
- ・設備の問題では、バス停はかなりわかりにくい。また、エスカレーター誤進入のブザーがやや長いと感じる。
- ・八重洲のような巨大な複合施設ではサイン自体が探せない。人が多すぎる場所の場合どうすればよいのか考える必要がある。
- ・天井の照明などの前後関係も含めて総合的に考えてはどうか。資料2の概念図の整理がもう一度必要である。資料3-2ではガイドラインで対応済みのものとそうでないものの整理をある程度つけたほうがよい。
- ・特に視力の低い人は床面のサインを重視するため、被験者の視機能についての整理が必要である。また、事前に調べるものと現場でわかるものと、表示・サインには2種類ある。事前にわかっているかどうかで分かりやすさは全く異なる。
- ・階層化して問題をとらえてはどうか。空間と環境がわかりやすいかどうかで、その先のサインや情報が全く意味が違ってくる。空間の分かりやすさという点が今まで欠落しているのでそこに力を入れてほしい。また、井上眼科の良い点悪い点について、一度何が良いのか何が悪いのか確認してはどうか。

### 第3回

日時：平成25年3月25日（月）13:00～15:00

場所：中央合同庁舎3号館4階総合政策局局議室

議事内容：

- 1) 旅客施設における設備整備の問題構造の整理結果について
- (2) 先進的施設における実証実験の結果について
- (3) 実証実験の結果を踏まえた望ましい設備整備のあり方（案）について
- (4) 報告書のとりまとめについて

委員指摘事項：

【実証実験について】

- ・補助器具を使用した人が少ないようだが、以外な結果である。補助器具の使用は禁止していたのか。
- ・明治神宮前駅を利用したことがある人はどれくらいいたか。
- ・視野の欠損箇所と行動に関連はあったか。
- ・視機能の他に、通常のサインがどのように見えるかといった、見え方の水準を、ランク別または種類別に分けたデータも必要である。
- ・使わなかった、素通りしたサインについては記録が残らない可能性がある。
- ・ロービジョンだからそのサインが発見できなかったとは限らない。明治神宮前駅は複雑なため、健常者でも発見できない可能性がある。ロービジョン者だけでなく健常者何人かで比較の実験をしているのか。
- ・駅空間のサインは一般の人のためにある基準でつくられているものである。そのサインがどの程度ガイドライン通りに作られているのか、その上で一般の人がきちんと使えているのかというのが第一段階。その次に、ロービジョンの方が、一般の人が使えているものが使えていないのかどうか。そうするとそのサインを変えるべきなのかどうか、という議論に進む可能性があるので、そこにもっていくための考え方をもう少し整理して実験のまとめ方を収斂していったらどうか。
- ・エスカレーターの逆方向に進入しそうになった方、人にぶつかった方、途中で断念した方がいるようだが、こういったエラーが起きた場所の環境、エラーの原因、エラーを何でカバーできたのか、といったところを今後の分析で明らかにしていきたい。
- ・資料 1-1 で、移動時の拠り所として4つ挙げられているが、5つ目として人の行動がある。
- ・普段歩く際にサイン表示や誘導ブロックをどれくらい手掛かりとしているのかでグループ分けを行ってはどうか。視機能分類のBの中でもサインを一生懸命見るタイプとそうでないタイプがあるのでは。またグループによって良く見られていたサインが違ったり、そういった結果が得られるのではないか。
- ・サインを見つけてから階段を発見するのではなく、人の流れや風の吹き上げなど、サイン以外の情報から階段を発見することもあるのではないか。
- ・眼鏡を使用されている方がいたとのことだが、具体的には何番の方か。また他に補助具としてメガネ等視力矯正のものを装着している方はいなかったのか。
- ・駅構内の明るさや暗さも影響しているのではないか。
- ・結果的には移動出来たがキョロキョロしていたとか、歩調がゆるくなっていったとか、本人の申告がなくてもとまどいのようなものが見られたといったことが集中し

ているところがでてくるのではないか。間違った所もちろん必要であるが、結果的には行けたが多少迷いがあるところについても分析できるとよい。

- ・被験者の特性について、先天なのか中途なのかということは聞いているか。歩行訓練を受けているかについてはどうか。
- ・誘導ブロックの設置のされ方や、サインのルールをご存じない方が多いと感じた。一般の方も含めルールについて教育することや、ロービジョンの方についてはサインの上手い使い方といったことを教える機会が必要である。ただし、現状ではサインが体系化できておらず、使い方というものが逆に提案できない。

#### 【設備整備のあり方（案）について】

- ・被験者が何を手掛かりにしたか、どこでどう間違ったか、どこで迷ったか、どういう情報を入手したか、そういった課題を整理し、その中で支援的に付ける対応策はどのようなものがあるのか、あるいは問題が起きている場合には、問題を防ぐにはどういうことをやったらいいのかということからまとめてほしい。初から抽象的に書かれるとよく分からなくなるので、できるだけ具体的な部分で課題と対応策の方向を書いていただくほうが後々役に立つ。
- ・設備のあり方も、被験者の視機能や行動能力のレベルのようなもののグループごとに、こういったグループにはこれくらいのことが必要、もう少し見にくい方だとこれくらいのことが必要といった形でまとめるのではないか。個々の問題を挙げていくと、人によってはそれほど問題ではないというところと、人によってはかなり問題であるというところが出てくると思うので、このまとめも、グループごと等にわけるとわかりやすくなるのではないか。まとめ方の手順を考えていただきたい。
- ・階段の発見について、ここは構造的にエスカレーターと階段がセットになっているから発見しやすかった、そういったことが書かれているといいのではないか。具体的な記述、例えば音や、エスカレーターのこういう部分を見つけて階段を発見し、その次にサインを見てどこ行きの階段なのかを確認している、といったことがわかれば、設計する側は考えることができる。
- ・健常者とロービジョン者の比較の他に、白状を持った人と持たない人の比較もあるのではないか。ロービジョンで白状をついている人の割合も多いと感じる。

#### 【報告書のとりまとめについて】

- ・報告書の全体構成について、ヒアリングを受けて実証実験を行ったという関係なのか、ヒアリングと実験は並列の関係なのか。
- ・ガイドラインとの適合性について、「一部不適合」といった表現があるが、なぜ不適合なのかがわかりにくい。
- ・現状では、ガイドラインに①適合している、②プラス（過度）の不適合、③マイナス（不足）の不適合の3種類あるのではないか。
- ・今後の検討課題については、直近で対応できること、長期的にやらなければいけないこと、といったかたちで整理してはどうか。
- ・今回の調査で具体化された課題と、それ以外の今後検討すべき課題について、上手く整理して書いてほしい。
- ・部分的に改善すれば解決できることと、全面的にゼロから駅をつくるようなことで解決できることがあるので、書き分けてほしい。